

# 令和2年度 事業報告

特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会

## I. 次代を担う青少年の育成事業の取り組み

### 1. 第39回サマーショートボランティア活動計画事業

(静岡県共同募金配分金事業・静岡県議会ボランティア推進議員連盟助成事業)

毎年夏休みに福祉施設や社会教育施設でボランティアを体験する本事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、感染症予防に使える簡易防護服（ビニールガウン・ビニールエプロン）づくりに活動内容を変更して実施した。製作にあたっては、NPO法人笑顔と健康づくりShizuokaにご指導いただいた。

参加者は、感染症のリスクや不安を抱えて仕事をする医療機関や福祉施設で働く人に思いを馳せ、自宅や学校で活動に取り組んだ。

#### 参加者数

【申込書数】1,217名

【完成数】エプロン3,754着、ガウン6,220着

ボランティアと施設がこれまでのように活動できない中でも、参加者が気持ちを届ける・現場にエールを送ることができた。大変な思いをしている現場を応援したいと考える参加者と、感染のリスクにさらされ不安を感じている現場の方との気持ちをつなぐことができた。



### 2. 青少年の異文化交流体験事業

#### ボランティア活動に学ぶ高校生スタディツアーINアジア

(静岡リパティライオンズクラブ共催事業)

高校生スタディツアーは、文化・生活様式の異なるタイの農村やバンコクで、同世代の青年たちと交流し、その国や人々の抱える様々な問題を自分達を含め地球市民のすべての問題をして捉え、「ボランティア」「国際交流」「国際協力」のあり方を学ぶ機会としてきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため今年の実施は見合わせた。

### 3. 高校生・大学生と共に創る「地域共生フォーラム」

(静岡県共同募金使いみちを選べる赤い羽根募金助成事業)

#### ◇事業の目的

私たちの身の周りにある「偏見や差別」「貧困」「人間関係の悩み」等を共に考え、“学びの機会”としていくよう、地域共生フォーラムを開催した。ゲストの渡部さんがこれまで経験してきたこと、出会ってきた人たちの話を通して「難民」と呼ばれている人たちが、日本国内においてどのような状況に置かれているのかを理解することができた。特に、日本の場合は、難民認定率が極めて低く、難民認定を求め日本に入国したものの、難民認定をされず厳しい生活におかれたままの人たちが数多くいること。難民の話が、遠い国の話ではなく、身近な日本国内で生活している外国籍の人たちのことに、関心を持ってほしいというお話を通して、共生社会を考えるヒントを得る内容となった。コロナ禍において感染防止対策に十分配慮のうえで開催することができた。

開催日時：1月10日 13時～16時30分  
 開催場所：静岡県総合社会福祉会館7階703会議室  
 講師：渡部カンコロンゴ清花さん  
 (NPO法人Welgee代表理事)  
 講演タイトル「いまを一生懸命に生きる」  
 参加人数：20名（スタッフを除く）



#### ◇事業の成果

- ①ゲストの渡部カンコロンゴ清花さんと参加者のつながりが持てたこと。
- ②紛争や内戦など様々な事情で祖国を離れ、日本国内に滞在している外国人が、日本での難民認定申請をしても容易には難民として認定されない実情を知りえたこと。
- ③難民認定を求める外国人の中には、優秀な人材が多いという話であり、有能な人材が企業やNPOの世界で活かされるためには、どのようなことをしていけばよいのかを考える機会になったこと。
- ④ゲストと参加した高校生、大学生が、自由に英語を操り自由に話す場面もあり、参加者たちの国際感覚を感じられる場面があった。



## II. ケアの文化を社会に浸透させていく取り組み

### 「ケアする人のケア」を学ぶ会2020

(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

さまざまな困難を抱えた人たちへのケアと、その人たちを支える側にいる“ケアする人”へのケアの実践やアイデアを学び、みんなで支え合う地域や社会づくりを考えることを目的に開催した。第1回、第2回の開催は（公財）静岡県労働者福祉基金協会との共催事業。

【第1回】 開催日：10月10日（土）

会 場：ALWFロッキーセンター大会議室

講 師：牧 秀一さん（（特活）阪神淡路大震災よろず相談室 前理事長）

内 容：「人は人によってのみ救うことができる

～阪神淡路大震災25年間の活動から～

参加者：29名

【第2回】 開催日：1月16日（土）

会 場：ALWFロッキーセンター大会議室及びオンライン（Zoom）

講 師：内藤いづみさん（ふじ内科クリニック院長）

内 容：「みんなが安堵の時にむかって」

参加者：39名

【第3回】 \*TOMOSHIBIプロジェクトとのコラボ企画として実施

開催日：3月6日（土）

会 場：静岡県男女共同参画センターあざれあ 大ホール

内 容：映画「風の電話」上映

ビデオメッセージ 佐々木格さん（「風の電話」ベルガーディア鯨山主宰）

参加者：167名（TOMOSHIBI参加者を含む）

本事業は、医療現場や家庭、講師と参加者が作り出すあたたかな会場の雰囲気も含めて「ケアする人のケア」を学ぶ場、参加者自身が癒される場でもあることが大きな特色であり、大事にしていることでもある。コロナ禍の中での開催となったが、従来どおりの会場型で実施した1回目も、初めてオンラインを使った2回目も、その点が大きく損なわれることはなかった。講師の力によるところが大きい、ひとつの成果としたい。3回目は、TOMOSHIBIプロジェクトとのコラボ企画として映画「風の電話」上映会を企画した。風の電話の主宰者である佐々木格さんにはビデオメッセージをいただき、映画の内容をより深く理解することにつながった。



### Ⅲ. 大規模災害に備えたボランティア活動体制を整備するの取り組み

#### 1. ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク事業

ネパール地震への対応として、平成28年度にネパール国パタン市に地震防災コミュニティセンターを建設し、平成29年4月25日に同センター落成式への参加している。地震から3年が経過した2018年4月、現地視察を実施した。この視察をきっかけにパタン市から建物の耐震技術を学んでもらう新たなプロジェクトが動き、2019年度に人選された方が2021年4月に来日予定となっているが、コロナ禍が続くため、残念ながら来日が実現していない。

(1) 海外での大規模災害発生に伴う支援活動の継続

ネパール地震被災地へのかかわり

パタン市より建物の耐震技術を学んでもらうプロジェクトが動き、2021年4月、静岡理工科大学で学ぶため来日予定。



- (2) 東南アジア地域などで災害支援を行う、大規模災害は発生していない。
- (3) 本ネットワーク事業の委員会を開催することができておらず、課題となっている。

## 2. 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク事業

東海地震を含む南海トラフを震源とする巨大地震等の大規模災害に備え、“支援から取り残される地域をつくらない”ためのボランティア活動体制と広域連携のしくみを具体化させることを目的に事業を実施した。

### (1) 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会

(静岡県労働者福祉基金協会助成事業)

大規模災害時のボランティア活動に関する受援体制づくりと広域連携のあり方について検討し、平時の取り組みを具体化させていくことを目的に標記委員会を開催した。

委員数：23名（新任5名うち新規団体2名） ※他、事務局など

委員長：岩田孝仁氏（静岡大学防災総合センター教授）

会場：静岡県総合社会福祉会館2階ボランティアビューロー及びオンライン

【第1回】開催日：7月31日（金） 参加者：26名（会場18、オンライン8）

- ・「新型コロナウイルスの感染が懸念される状況におけるボランティア・NPO等の災害対応ガイドライン」について

説明：明城徹也氏（JVOAD事務局長・ネットワーク委員）

- ・「新型コロナウイルス感染防止を踏まえた静岡県災害ボランティア本部・情報センター及び市町災害ボランティアセンター運営の考え方」について

【第2回】開催日：8月31日（月） 参加者：29名（会場19、オンライン10）

- ・新型コロナウイルス影響下の豪雨災害被災地で取り組まれている支援活動の事例から、受援のあり方と静岡県内で必要な準備について考える

事例提供：村井雅清氏（被災地NGO協働センター顧問）

【第3回】開催日：12月9日（月） 参加者：21名（会場13、オンライン8）

- ・災害ボランティアセンターにかかる費用の国庫負担について
- ・感染症が懸念される状況下における被災地支援活動のために必要な準備について考えるグループワーク

- ・「第16回図上訓練」の概要説明と意見交換

【第4回】開催日：1月27日（水） 参加者：18名（オンライン）

- ・「災害ボランティア連携・協働研修会～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～」への参加

【第5回】開催日：2月26日（金） 参加者：22名（オンライン）

- ・第16回図上訓練ワーキンググループとの顔合わせ、ワークプログラム検証への参加
- ・本年度のネットワーク委員会ふりかえり

コロナ禍中の災害ボランティア活動について多くの事例や情報、ヒントや課題を共有することができた。また、感染症等防止を踏まえた県災害ボランティア本部・情報センター運営の考え方や災害ボランティアセンターにかかる費用の国庫負担など、若干ではあるが体制整備に関して具体的な検討ができた。



## (2) 第16回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

南海トラフ地震等により静岡県内の複数市町が被災すると、公助のみならず様々な立場の民間組織等による支援活動が想定される。新型コロナ等感染症が懸念される中で被災したときには、県域を超える地域からの支援が得にくい状況になると考えられることから、県外からの支援にだけ頼るのではなく、改めて自らの地域を見直すためのワークショップ型訓練を計画した。

コロナ禍に鑑み「会場分散型」「オンライン併用」訓練の準備を進めていたが、コロナの感染拡大により延期を決定し、本年度の実施は見合わせた。

### 【図上訓練企画ワーキンググループ会議の開催】

訓練実施に協力いただく企画ワーキンググループ(以下、WG)を設置。県内を中心に様々な分野のメンバーが集まり、6回にわたりプログラムや実施方法などを検討した。会議にあたっては、WG内に設けた企画チームが事前に打ち合わせ、内容や進め方などの準備を行った。WG会議・企画チーム会議とも、会場参加とオンライン参加のハイブリッドで開催した。コロナ禍で訓練は延期となったが、WGには次年度の実施に向けて引き続き協力いただく。

○メンバー：26名(県内20名、県外6名)他オブザーバー・協力者6名、事務局1名

○開催日：第1回...10月23日(金)、第2回...11月16日(月)、第3回...12月16日(水)、  
第4回...1月18日(月)、第5回...2月3日(水)、第6回...2月26日(水)

\*第6回はネットワーク委員にも参加いただき、次年度の訓練に向けたワークプログラムの検証を行った。

### 【市町社協への図上訓練説明会】

「会場分散型」「オンライン併用」の訓練について、市町社協に対し県社協とともにオンラインで説明会を行った。

賀茂地区：12月10日(木)、東部地区：12月15日(火)

中部地区：12月15日(火)、西部地区：12月14日(月)



## IV. 中間支援組織として「つなぐ」活動の取り組み

### 1. 静岡県総合社会福祉会館ボランティアビューロー管理者としての活動

ボランティアビューローは、ボランティア・市民活動団体の活動支援を行う機能を持ち、60名の定員で研修や会議、ボランティアの交流会などに利用してもらえる場を提供している。また、南海トラフ巨大地震などの大規模災害時には「静岡県災害ボランティア本部・情報センター」としての活動を行う場所となる。

今年度は4月18日から5月13日まで新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令され、ボランティアビューローの貸出を中止した。

■令和2年度ボランティアビューロー利用状況

利用件数：227件

利用人数：3,287人

## 2. ボランティア相談支援事業等

### (1) ボランティア相談支援

日常的に寄せられる相談内容は多岐にわたる。個人の「ボランティアしたい」から福祉施設等の「ボランティアがほしい」、ボランティアグループの活動上の相談などもあるが、個人の生活に関する相談やどこにも行き場がなく本協会に問い合わせをしてきたケースも見られる。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、感染症の影響で生活がひっ迫している方への支援に関連した相談が多かった。コロナ禍で苦しい思いをされている方と、苦しい思いをされている方を支援したいと考える方を結ぶにあたり、中間支援機関としての役割を改めて問われることとなった。専門的な知識を身につけ、専門機関へつなぐことが今後ますます必要になってくる。以下、寄せられた相談の中でケース記録化したものを報告する。

<相談受付件数> 53件（記録化したもの）

※複数の項目に該当する相談があったため、合計数は受付件数を上回る。

(相談内容)	ボランティアをしたい	7
	ボランティアがほしい	2
	(V・Gなどの)活動上の問題・相談	1
	問合せ(～について教えて欲しい)	7
	講師を紹介してほしい	1
	協会事業について教えてほしい	2
	事業・講座実施相談	4
	その他(新型コロナウイルス感染症関連11件など)	34

<相談者区分内訳>

相談者区分	件数
個人	19
施設・福祉団体	0
行政	2
社協	2
企業・労働組合	12
VG	3
学校・生徒会	3
その他	12
総計	53

<市町別相談者>

東部		中部		西部	
御殿場市	1	静岡市(区不明)	4	浜松市中区	1
裾野市	1	静岡市葵区	13	浜松市西区	1
富士市	1	静岡市駿河区	9	浜松市北区	2
富士宮市	2	静岡市清水区	2	浜松市浜北区	1
長泉町	1	島田市	1	磐田市	1
小計	6	藤枝市	1	袋井市	2
		焼津市	1	菊川市	1
		川根本町	1	森町	1
		小計	32	小計	10
		不明	2	県外	3
		総計	53	件	

### (2) 教育現場におけるボランティア学習の啓発・推進

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの学校でボランティア活動に満足に取り組めない状況となった。活動を希望する学校には、「サマーショートボランティア活動計画」や「ボランティア参加促進」で取り組んだ、感染症予防のための簡易防護服づくりや、学校や自宅で取り組める「切手コツコツ整理ボランティア」を紹介した。また、福祉の学習資料を求められた際には、ボランティアの手引き「ボランティアガイダンス」を提供し、わかりやすいと好評を得た。

### (3) 大型リフトバス「ふじのくに愛輪号」の運行管理

(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

主に移動障害を持つ方々の当事者団体や施設、ボランティアグループなどが、研修や旅行等の際の移動手段として利用できるリフトバスの運行管理を行ったが、新型コロナウイルスの影響により、利用申し込みはほとんどなかった。

利用を予定していた団体が6団体あったが全てキャンセルとなり、年間の利用は2件にとどまる結果となった。



#### 運行実績

- (1) 運行件数：2件
- (2) 運行日数：2日
- (3) 利用団体数：2団体・施設
- (4) 利用者数：のべ45人
- (5) 運転ボランティア数：のべ4人

### (4) ボランティア活動参加促進事業

(静岡県共同募金配分金事業)

本事業は、働く世代の方々や学生をはじめ、一般市民を対象に、ボランティア活動への興味・関心を高め、参加意欲を喚起すること、身近なボランティアに参加するきっかけをつくり、地域の一員として社会の課題解決に取り組み、ボランティア・市民活動への参加を促進することを目的に実施した。

#### 【いまでできることクラブ～今こそ「うちボラ」しませんか!!～】

開催日：5月20日、25日、6月5日、10日、15日 午前と午後の計10回開催

場 所：静岡県総合社会福祉会館 ボランティアビューロー

内 容：医療や介護の現場で使う簡易ビニールエプロンと  
ビニールガウンづくり

参加者：22名



#### 【えらべるあったかボランティア】

開催日：12月5日（土）

①学びたい ～感染症対策に役立つ知識を得たい～

②動きたい ～おまつりでみんなを笑顔にしたい～

場 所：静岡県総合社会福祉会館

①7階703会議室 ②1階・7階

内 容：①感染症防止のためのビニールガウンづくり

②あったかまつりの運営ボランティア

参加者：①17人 ②74人



#### (成果と課題)

コロナ禍だからこそ「人のために何かをしたい」と考えて参加して来られる方が多かった。そうした方々に対し、今だからこそ必要とされる活動の機会を提供することができた。



### (5) ボランティアガイドランスの作成

(静岡県共同募金配分金事業)

ボランティア活動に関心を持つ人たちや、実際に参加する人たちに心構えや活動を紹介し、活動していく上での手引書としてもらうことを目的に作成・配布する。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響による事業中止・変更等に伴い、配布の目途が立たなかったため、前年度の残部を配布するに留め、新たに制作することは中止した。

## 3. 市民活動サポートセンター事業

### (1) 市民活動に関する助成金情報をはじめとした情報収集と提供

助成金情報、研修情報をはじめとする市民活動支援のための情報、企業の社会貢献活動、行政における市民活動支援に関する情報などを収集し、提供した。

### (2) ボランティアコーディネーター研修会

(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

ボランティア・市民活動の裾野の活動を広げるための人材育成を行う。市民活動センターや社協ボランティアセンター職員、福祉施設などのボランティア受入先などを主な呼びかけ先として参加者を募り実施した。

開催日：9月11日（水）13：30～16：30

場 所：静岡県総合社会福祉会館1階 103会議室

講 師：後藤麻理子さん（認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会事務局長）

内 容：ボランティア・市民活動センターに勤務する職員をはじめ、福祉施設等に勤める職員を対象にボランティアコーディネーターの基礎を学ぶ

参加者：21名

#### (成果と課題)

コロナ禍ではあったが、社協職員を中心に多くの参加があった。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、社協・施設職員はこれからの受入の在り方や受入ができない現状でのボランティアへの対応に悩まされていた。ボランティアの立場で参加をした人は、活動できない現状に今後どうすれば活動に携われるか歯痒い思いを抱えているようだった。

講師はそんな参加者の声に耳を傾け、これまでの活動にこだわらないことやコーディネーターにおいて大切なことは、コロナ禍でも変わらないこと等、参加者の悩みを払拭するような講話とグループワークをされた。



### (3) ファシリテーション講座2020

(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

市民活動やボランティア活動に関わる人たちを主な対象に、さまざまな話し合いの場に参加する人たちの主体的な発言を促し合意形成をはかる「ファシリテーション」の基礎と実践を学ぶ講座を実施した。

日 時：11月14日（土）・15日（日）9：30～16：30 \*2日間の連続講座

場 所：静岡県総合社会福祉会館2階 ボランティアビューロー及びオンライン（Zoom）

講師：鈴木まり子さん（特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 フェロー）  
参加者：15名...福祉・医療、行政、災害ボランティア/NPO、当事者/支援団体、学校など

参加者一人ひとりが「ファシリテーションの基本となる心づかいや手法を理解し、『自分の現場で活用しよう』という気になっている」ことを目標に、講義とワークショップを通して基礎から実践まで幅広く学んだ。リアル（会場）とオンラインを並行して進めるハイブリッド講座で、オンラインでのファシリテーションのコツも学ぶことができた。



#### （４）第38回ボランティアリズム推進団体会議（通称：民ボラ）大阪大会

「ボランティアリズム推進団体会議」（通称：民ボラ）は、ボランティアに市民活動を進めようとする団体・人々が集い、相互研鑽を進める場である。「ボランティア」「市民参加」「共感力の向上」をキーワードに、ボランティアや市民活動推進に関わる関係者が全国から集い、1983年以降、毎年開催されてきた。38回目となる今回は、社会福祉法人大阪ボランティア協会を事務局として、次の各テーマ候補の中から全体会テーマおよび分科会テーマを決める予定であった。しかし、新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的流行を原因として、2020年7月11日（土）・12日（日）に予定されていた本事業は中止、2021年令和3年7月に延期されることになった。これまで協議されている内容は以下の通り。

（延期後の日程）

開催日：令和3年7月3日（土）・4日（日）

会場：大阪ボランティア協会

＜オープニング全体会＞

- ・「同調圧力」を考える～自粛強制の時代、市民の自由をどう拓くか～

＜分科会テーマ＞

- ・ボランティア再考～今だから確認したい  
「協力のテクノロジー」でボランティアのこれから
- ・民間とは？民間性を維持する財源とは？  
～コロナ禍での事例を基に、民間性を支える財源、脅かす財源を考える～
- ・原発避難者の支援の10年と今後の支援  
～行きづまった支援策と、将来の支援（+アドボカシー）について～
- ・災害時にも誰も取り残さないために～中間支援組織の役割を改めて考える～
- ・若者のボランティアとワークキャンプ  
～泊まって語る・体験・体感することがもたらすもの～

＜クロージング全体会＞

- ・最後のひとりまであきらめない～支援から取りこぼされる地域、人とともに～

## (5) 県民の日イベント「フェスタシズウエル2020」

静岡県総合社会福祉会館（愛称「シズウエル」）をより多くの人に知ってもらい利用してもらうために、会館入居団体で実行委員会を組織し「フェスタシズウエル2020」が準備されたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

## (6) カレーズの会への活動支援協力

認定特定非営利活動法人カレーズの会は、任意団体として発足した2002年4月よりアフガニスタン・イスラム共和国南部のカンダハール市で医療と教育の支援を続けている。

アフガニスタン・イスラム共和国では2020年2月29日にアメリカ政府と反政府武装勢力タリバンの間で和平条約が締結された。和平に向けてのアフガニスタン政府とタリバンの直接対話は2020年9月にスタートしたが、双方の主張がかみ合わず10月以降全国で急速に武力衝突が拡大している。2020年11月末には、同会の活動地である南部カンダハール州の州都カンダハール市の近郊でも大規模な戦闘が発生し、10万人に上る地域住民が家を追われた。この難民の一部はカンダハール市の町外れに設営された難民キャンプでマイナス10度にもなる厳しい冬を越すことになった。

世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症に関しては、現在は第三波とみられる感染の再拡大が起きている。一方で、開発途上国へもワクチンを供給することを目的とした世界規模のワクチン共同購入の枠組み＝COVAXがスタートし、2021年3月以降インドのセルム研究所が製造したアストラゼネカ製ワクチンがアフガニスタンに到着した。アフガニスタンは2020年5月末までの第一次配分で250万回分のワクチンをCOVAX経由調達する予定で、カンダハール市の医療従事者にもアストラゼネカ製のワクチンが届いた。

治安の悪化と新型コロナウイルス感染症のパンデミックという2つの重荷を負いつつも、同会は診療所を通じて地域住民への医療サービスの提供を継続した。

2020年度の診療所利用者は37,109名で、2020年12月には2002年の診療開始以来の累計患者数が65万人を超えた。

2020年度の正会員数は個人230（282口）、団体11（12口）。賛助や学生を含む総会員口数は325口となった。一方、マンスリーサポーター寄附、特別募金（夏季及び年末年始）、指定寄附金（出産介助事業及び新型コロナウイルス感染症対策）等の件数は合計で1,456件であった。



幼児向け予防接種の様子（2020.1）

## (7) ふじのくに静岡・協力隊を育てる会への活動支援協力

青年海外協力隊は1965年に発足し、静岡県からの参加者は2020年9月末現在で累計85ヶ国1,543人にのぼっている。青年海外協力隊事務局や帰国隊員の組織等と協力しながら、本県の広範な人々にも参画してもらい、青年たちが開発途上国で国際協力活動を通して得た貴重な体験を、地域社会に還元し貢献できるよう、幅広く対応するため「ふじのくに静岡・協力隊を育てる会」が平成27年1月24日に設立された。同会の事務局を本協会に置き、「育てる会」の活動を側面的に支援している。

## (7) フードバンクふじのくにへの活動支援協力

コロナ禍により生活困窮状態の人々に対してフードバンクふじのくにへの食料支援の依頼が急増した。このため、赤い羽根共同募金会からの緊急的な支援もあり食料を求める人たちへの支援が継続されている。本会では、フードバンクふじのくにへの側面的な支援として輸送費を節約するため、2021年5月から7月までの3か月間、定期的に食料支援先に食料の配達をするなど活動支援にあたった。

## 4. 研修・養成事業

### 第43回静岡県ボランティア研究集会

(静岡県労働者福祉基金協会助成事業・静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

テーマ：やらまいか！ 浜松！  
今だからこそ 思いやりとささえあいのハーモニー

静岡県内でボランティア・市民活動に関心を持つ人たちや、実際のボランティア活動に参加している人たちが一堂に会し、情報交換や話し合いを通してお互いの活動に関する学習を深めるとともに、ボランティア同士のネットワークづくりを推進することを目的に開催準備を進めた。

しかしコロナ感染拡大が収まらないことから1年間の延期を決定した。この間に準備されているテーマ、分科会等の内容は1年後に活かし、第43回集会として浜松市で開催することが確認されている。

- 主 催：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会  
公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会  
共 催：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会  
社会福祉法人浜松市社会福祉協議会  
実施主体：第43回静岡県ボランティア研究集会実行委員会  
後 援：静岡県・静岡県教育委員会・  
浜松市・浜松市教育委員会



## 5. 広報誌発行事業

### 機関誌の発行

会員はじめ関係機関等に対し、協会の事業や活動をPRするとともに、活きたボランティア情報を提供する。

#### 【ボランティア情報静岡】

年間4回(春・夏・秋・冬)の季刊発行。特集では、協会の事業や取り組みをより詳しく報告し、ボランティア活動・市民活動に役立つ助成金や講座情報などを掲載。各号1,200部発行する。

#### 【ぼらんていあMail】

会員に対し、事務局の1カ月の動きや予定を紹介する。職員のコラムや最新の取り組みなどを掲載することで、ボランティア協会をより身近に感じていただく。年間12回、毎月600部発行する。



## 6. 情報提供事業

### ホームページの運用・管理

本協会の主催・共催事業の要項掲載並びにウェブ募集、ボランティア募集情報や助成金、研修会情報などを掲載し、ボランティア・市民活動者への情報提供を行う。

## 7. 静岡市番町市民活動センター指定管理事業

(静岡市委託事業)

人々の市民活動に対する意識を高め、新たな市民活動団体・NPO団体の萌芽や発達を促し、さらに充実していく過程を支えていくことが、公設民営の静岡市番町市民活動センター（市民からの愛称：番町センター）に求められている役割と考えている。

「好きな静岡をすてきな静岡へ」と「番町センターは市民活動の仲間づくりをします」を掲げ、幅広い年代、立場の市民活動団体の方々に親しまれ、利用しやすい番町センターと心強く思ってくれる市民の利用をサポートした。

### (1) 利用状況

	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9
開館日数	28	29	28	29	29	28
利用人数（人）	990	393	1,679	1,791	1,820	2,215
利用件数（件）	514	271	708	652	683	736
新規登録団体数	0	1	1	2	5	3

	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	合計
開館日数	29	28	26	26	26	29	335
利用人数（人）	2,940	2,540	2,055	1,937	2,340	2,760	23,460
利用件数（件）	879	760	636	674	752	908	8,173
新規登録団体数	4	0	3	1	2	5	27

センター利用登録団体数：836団体（参考：令和元年度 813団体、平成30年度 778団体）

### (2) 情報提供

情報誌「ばんたび」、広報誌「かわら版」、メールマガジンの発行を通じて、センターで開催する講座・イベントの案内や利用団体の活動広報をおこない、市民活動の推進を図る。

### (3) 市民活動に関する相談

	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9
相談件数	27	10	35	28	22	23

	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	合計
相談件数	31	18	12	27	29	27	289

NPO設立や運営上の相談をはじめ、資金・人材確保についてや協働事業の提案など、市民活動を行う上でのさまざまな内容の相談対応にあっている。

## (4) 市民活動に関する講座等の実施

### ① 啓発講座

#### <1>ランチ講座

「飛沫防止パーテーションを作ろう！

～オープンデータにしていく『イマココ』の活動～

開催日：6月7日（日）

ゲスト：山内真一さん（イマココ）

坪井建憲さん（柚プロジェクト）

参加者：20名

「新型コロナウイルス感染拡大下で見えてきたもの～SDGsを考える。その3～」

開催日：6月27日（土）

ゲスト：木下聡さん（しずおかSDGsネットワーク）

参加者：17名

「ウィズコロナ」そして「アフターコロナ」「ポストコロナ」の社会を思い、考えなければならない時代となった。この新型コロナウイルスの感染症は世界中に蔓延し、考えようによっては平等な災禍である。しかし現実には、その人が住む環境や社会の状況、経済状況などにより、感染の危険度や医療などの受援状況などが違うという現実も明らかに分かってきている。これは、一種の差別や分断が起こっているのだとも言える。

SDGsは「誰をも取り残さない」そして、「最も遅れているところにまず手を伸ばす」というものだ。今のこの時代にこそ、SDGsを知り、目標に向かう動きを深めていかなければならないのとの思いで、今回の「新型コロナウイルス感染拡大下で見えてきたもの」と題したランチトークを開催した。



#### <2>「在来作物を守り活かすNPOと企業」

開催日：7月26日（日）

ゲスト：中政俊さん（NPO法人こいねみさくぼ理事長）

稲垣栄洋さん（静岡大学農学部教授）

参加者：45名（オンライン：YouTubeのLiveシステム）

#### <3>「ネパールの民主的な国づくりに寄り添う

～日本の経験を活かして～SDGsを考える。その4」

開催日：9月12日（土）

ゲスト：松田徳子さん（JICA）

参加者：56名（会場31、オンライン25）

シリーズ企画「SDG s を考える。」の4回目は、民主的な国づくりに取り組むネパールの法整備に、日本はじめ多くの国々が手を貸していることを事例に、地球上のいろいろな国々がパートナーシップを組んでより良い社会...すべての人の人権が守られ、暮らしが守られる社会...にしようとしていることを、さまざまな立場の市民に知ってもらい、シリーズで学んでいるSDG s についての学びも深めてもらうことを目的に開催した。



#### <4> 「東日本大震災から10年～伝える×備える～」

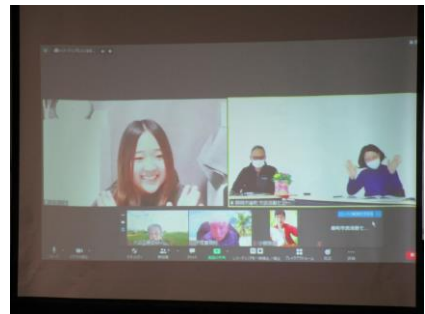
開催日：2月13日（土）

ゲスト：大石学さん（清水災害ボランティアネットワーク）

加藤小凜さん（常葉大学ボランティアサークルThunderbird）★オンライン

参加者：30名（会場24、オンライン6）

被災地に行き続けているのは、そこで暮らしている方々のことを忘れないでいるよと伝えていきたいから。それが被災地に住む方々の心の復興になると信じているということ、また、学生サークルの活動も、メンバーが変わっても熱心な先輩の姿を見て後に続いているということそれぞれをそれぞれのゲストから伺い、被災地に行くことは決して一方的な支援ではなく、お互いに心を支えあっていると感じられる講座となった。



## ② 人材・団体育成講座、実務講座

### <1> 「新型コロナウイルス感染症の感染防止に対応したNPO法人の社員総会・理事会の開催」

開催日：5月19日（火）

視聴者：101名（YouTube配信）

### <2> 「NPO実務講座：成功事例に学ぶ！助成金活用講座」

開催日：5月21日（木）

ゲスト：金澤朱美さん（ママの部活動）

前田嶺さん（任意活動団体YokaYoka）

参加者：12名（オンライン）

### <3> 「届け、私の想い～ICTで世界が広がる～」

開催日：11月28日（土）

講師：湯瀬裕昭さん（静岡県立大学教授、

静岡県立大学ICTイノベーション研究センター長）

参加者：22名

### ③ 11周年記念行事

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年のような大規模集客型イベントの開催を控え、10月の1ヵ月間を「いつでも来てね！番町学園祭」とし、展示スペースには参加団体の活動を紹介するパネル等と動画上映モニターを設置する。また週末には、出店団体を制限してバザー・マルシェを開催した。

開催日：10月1日（木）～31日（土）

月間来訪者数：1,012名、動画視聴者総数：949名

協力団体数：57団体

#### 【動画出演】

遊びの広場／アングルパラダイス／認定NPO法人活き生きネットワーク／いろどり～む／小川三知を讃える会／しずおかおでんジャー／カラフルメロディ／認定NPO法人カレーズの会／NPO法人子ども虐待防止センターしずおか／311を忘れないin静岡／さくらの架け橋会／しずおかおちゃっこ会／静岡市日中友好協会／NPO法人静岡県ユースホステル協会／NPO法人静岡FIDサッカー連盟／しずおか茶の国会議／静岡ゆうきの会／シュタイナー芸術の会／NPO法人静岡県ボランティア協会／柚プロジェクト／NPO法人トリプルエス／日本茶インストラクター協会静岡県支部／日本防災士会静岡県支部／ひかり市民センター／ヒマナスターズ／プラムフィールド／MYROS／NPO法人まちなびや／ママの部活動／やまねこくらぶ／静岡市番町市民活動センター

#### 【展示】

一番町地区防災委員会／元気になるう会／NPO法人子ども虐待防止センターしずおか／シュタイナー芸術の会／しずおかおちゃっこ会／認定NPO法人静岡市障害者協会／NPO法人助け合いネット静岡／チャリティサンタ静岡支部／NPO法人伝技塾／時の遊びもも／NPO法人静岡県ボランティア協会／静岡市役所高齢者福祉課／静岡市役所市民自治推進課

#### 【マルシェ・バザー】

静岡ゆうきの会／ごはんカフェSHIMADAKE／百笑来love／松永農園／もくぺれ／柚プロジェクト／NPO法人和っしょい夢街道／5日で5000枚の約束（新海豊店／西村豊店）／しずおかおちゃっこ会／一番町女性部／さくらの架け橋会／NPO法人静岡県ボランティア協会





来場者には、団体紹介のパネルや設問パネルを見ての感想をアンケート形式で答えていただき、209名の来場者より回答を得た。NPOや市民活動を知ることができたや、コロナ禍でも人の想いやつながりは忘れないでいたいとの回答が多く寄せられた。

#### ④ 共催講座、共催企画、後援イベント等

入居団体・利用団体との共催講座を開催し、番町市民活動センターにおける多様な市民活動団体の支援を行い、広く市民に市民活動の多様性を理解してもらうことができた。

共催した講座は全27講座、参加者総数は909名であった。

#### (5) 関係機関・団体等との連携及び交流促進事業の実施

<1>協働イベント（協働先：柚プロジェクト）

「海の日ゴミ拾い『BLUE SANTA2020 in静岡@安倍川河川敷』」

開催日：8月10日（月・祝）

参加者：20名

<2>利用者団体交流講座

「冬の宴参加用Zoomミニ講座」

①開催日：1月12日（火）参加者：4名

②開催日：1月15日（金）参加者：6名

<3>入居団体会議兼利用者会議

「冬の宴」

開催日：1月19日（火）

参加者：19名（会場11、オンライン8）

など、関連団体数は全33団体

番町センターでは、主催講座はじめ開催する各種講座ごとにアンケートを実施し、利用者満足度調査を行っている。「大変よかった」と「よかった」と回答した利用者の平均は92%にのぼり、目標の90%を達成することができた。

## 8. NPOプレゼント講座

（静岡県労働者福祉基金協会委託事業）

<1>「静岡のローカル指標をつくろう～SDGsを考える。その5～」

開催日：10月10日（土）13：30～16：30

ゲスト：長谷川雅子さん（CSOネットワーク）

塩原太一郎さん（スマートブルー㈱）

進行：木下聡さん（しずおかSDGsネットワーク）

会場：静岡市番町市民活動センター2階 大会議室

参加者：31団体、39名（31団体）

<2>「静岡のローカル指標をつくりました！～SDGsを考える。その6～」

開催日：2月20日（土）13：30～16：30

ゲスト：長谷川雅子さん（CSOネットワーク）★オンライン

進行：木下聡さん（しずおかSDGsネットワーク）

会場：静岡市番町市民活動センター2階 大会議室

参加者：42団体、57名（会場28、オンライン29）

内 容：「まあいしずおか」紹介  
プロジェクトの経緯紹介  
ワークショップ 他



コロナ禍により、例年3回開催していたNPOプレゼント講座は、規模を縮小し2回の開催となったが、①「自分たちの今現在していることだけでなく、他の人がしている活動にも目を向け関心を持ってみる。知ろうとしてみる。新たに関わっていくということも大切だとの視点を持つ」、②「SDGs（持続可能な地球のための開発目標）を知るだけでなく、実際になんらかの行動をしていくことが何よりも大切なことだと実感する」のふたつを理解・共有することをミッションとした。

今年度で終了となる「NPOプレゼント講座」の成果でもある『しずおかのローカル指標』を広めていくべく、2021（令和3）年度では番町センターの主催講座として、これまで開催してきた「ランチトーク」をリニューアルして「まあいしずおか・えもなトーク」を始める。「三密」を避けなければならないコロナ禍であるからこそ、人と人の心は温かなふれあいに満ちていますよという『エモーショナル』なトーク会として、毎回いろいろな分野で活動している人やグループを招き、つながり、共にSDGsのゴールを目指していく仲間を知っていきましょう！を目的に開催していく。

## V. 組織及び財政基盤強化

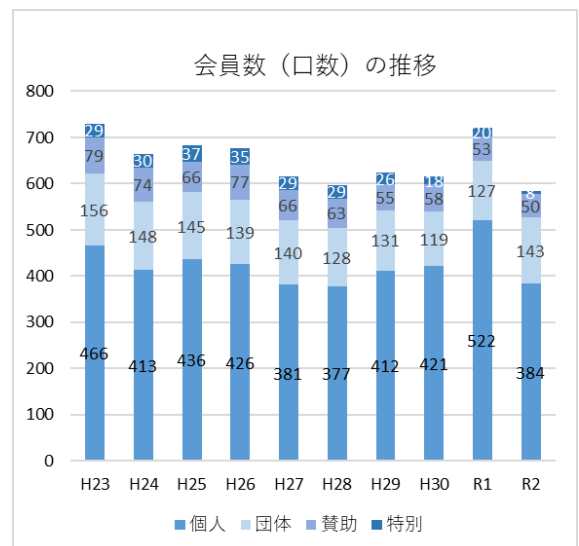
### 1. 自主財源を確保していくための事業

#### (1) 会員管理・会員獲得

民間の市民活動・ボランティア活動推進機関として、活動への理解と支援の上に寄せられる会費や寄付金収入など安定した財源の確保が不可欠であることから、会員獲得と募金に取り組んだ。

年間を通じて本協会事業の参加者や関わってくださった方々に協力を呼びかけたほか、6月1日～7月31日の2ヵ月間を会員増強キャンペーン期間として協会への理解と協力をお願いした。

コロナ禍で直接お願いできる機会は減り、リフトバスを利用する団体もほとんどなかったことから、利用に伴う特別会員登録も大幅減となった。



## (2) ボラ協の夏のとくべつ募金・年末年始とくべつ募金

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、社会活動が制限され、本協会事業も縮小・中止せざるを得ない事態となった。無意識のうちにつながりを断ち切ってしまうこの困難な状況の中でも人と人、心と心をつなぐを大切に活動に取り組むことが必要となる。誰もが安心して暮らせる社会を目指す事業を推進するための自主財源を確保するために、初めて夏のとくべつ募金活動を実施した。

### 【夏のとくべつ募金】

実施期間：7月1日～9月30日

協力依頼：協会会員、令和元年度年末年始とくべつ募金協力者、各市町社会福祉協議会、市民活動センターなど

協力者：93件 790,000円

### 【年末年始とくべつ募金】

実施期間：12月1日～令和3年1月31日

依頼先：協会会員、昨年度協力者、協会事業参加者など

協力者：113件 1,034,881円

## (3) 第36回しずおか福祉バザールinシズウエル ～思いやりつなげよう♪ボラ協あったかまつり～

新型コロナウイルス感染症の影響で人が集まるのが難しくなった今年、人と人との思いやりを感じられる場として、福祉バザール特別企画「思いやりつなげよう♪ボラ協あったかまつり」を開催した。

ボランティアや市民活動団体にも協力いただき、また、来場者には検温・手指消毒の他、連絡先の記入など感染症拡大防止のための対策にご協力いただいた上で、安心して楽しんでいただいた。来場者からは笑顔があふれ、人とふれあうぬくもりを感じられる場となった。

開催日：12月5日（土）

場所：静岡県総合社会福祉会館 1階101・102・103・104会議室  
7階703会議室

内容：・災害時に役立つ安心パック『ふくろう』、令和元年台風19号被災地のりんご販売、岩手の物産販売、映画「ダンシングホームレス」上映会

来場者：147名

売上げ：247,380円

### 【参加団体】

認定特定非営利活動法人カレーズの会／しずおかおちゃっこ会／似顔絵ウフフ／株式会社新海豊店／C&H Ami／静岡県地震防災センター／連合静岡／ビッグイシュー静岡読者会／NPO法人笑顔と健康づくりShizuoka／特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会



安心パックに入れる安心グッズとして、個人・団体・企業などより67件の物品の提供を受け、販売した。また、グッズの袋詰めや当日の運営など102名のボランティアの協力を得た。

#### (4) リサイクルでボランティアを応援

書き損じた年賀はがきや未使用のまま眠っているはがきの提供を呼びかけ、郵便局で新しい葉書や切手に交換し、情報提供や連絡調整など事業運営にあたる通信費とする。令和2年度は、63件の個人・団体より3,423枚の寄付をいただいた。

また、使用済み切手の提供を呼びかけ、令和2年度は、172件の個人・団体より154,162グラムの寄付をいただいた。いただいた切手は、切手コソコソ整理ボランティア（41件の個人・団体）に188.5キログラムを整理していただいた。

## 2. 本業を活かした企業の社会貢献活動と連携

### 1 本のジュースがVolunteerを応援

本業を活かした企業の社会貢献活動との連携として、清涼飲料水メーカーの協力のもとに、清涼飲料水の自動販売機を設置することでボランティア活動の支援につながる仕組み「1本のジュースがVolunteerを応援」に取り組んでいる。自動販売機の売り上げに応じて売上金の中から寄付をいただき、現在93台が稼働している。

#### 【協力企業】

ダイドードリンコ(株)／(株)伊藤園／東海ビバレッジサービス(株)／ユニヴァーサル商事(株)／サントリービバレッジサービス(株)／FVジャパン(株)

寄付金総額：1,023,471円

## 3. 理事会・定期総会の開催と事務局の連携

協会と協会組織の強化、充実を図るため以下のとおり理事会・定期総会を開催した。

#### 【定期総会】

開催日：5月17日（日）午後1時30分～3時

会 場：静岡県総合社会福祉会館2階 ボランティアビューロー

※新型コロナウイルス感染防止の観点から「密閉」「密集」「密接」を避け、会場の換気を心掛け、議案審議のみとし短時間で進行を心掛け開催した。記念イベント等は実施せず。

#### 【理事会】

第1回 5月17日（日）午前 事業報告、決算

第2回 10月28日（水）中間総括・補正予算案等

第3回 1月29日（金）令和3年度の事業方針等

第4回 3月25日（木）令和3年度事業計画案、予算案審議等

## VI. 緊急支援の取り組み

### 1. 7月豪雨災害ボランティア支援（熊本県）



2020年7月に熊本県人吉市などで発生した豪雨災害に対して、ボランティア活動支援金と支援物資の提供を呼びかけ、被災された方々への支援をおこなった。

#### <1>ボランティア活動支援金の募集

期 間：7月9日～8月31日

募 金：137件 1,576,620円

送金先：7団体 1,118,000円

#### <2>新品タオルの提供

期 間：7月9日～8月7日

提供数：73件 5,160枚

寄付先：熊本県人吉市役所 5,000枚

#### <3>人吉市サロン応援プロジェクト

「震災がつなぐ全国ネットワーク」経由で人吉市内で取り組まれるサロン活動の茶話会用茶菓子の応援をした。

寄付先：人吉市社会福祉協議会

提供品：桜エビせんべい・わさびせんべい  
各500人分69,120円相当を送った。



新型コロナウイルスの影響で、ボランティアの送り出しなどの人的支援はできなかったが、現地で活動している団体への活動資金を提供することができた。また、日頃からのつながりの被災地NGO協働センターやレスキューストックヤードからの要請に応える形で、直接被災地区の代表（大原伸司さん）や人吉市社協とつながりを持つことができた。特に球磨村の大原さんは、中村学園静岡福祉医療専門学校へつなぐことができ、被害の様子や復興にむけての地区の活動を学生たちが知る機会となった。

## Ⅶ. 災害支援の継続的な取り組み

### 1. 静岡からみかんを贈ろう！クリスマスサンタ隊

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町・釜石市・陸前高田市・山田町と協会の支援活動の拠点を置いた遠野市の幼稚園・保育園や福祉施設等に県民から提供いただいた“静岡のみかん”をお届けするためにボランティアを派遣した。コロナウイルス感染防止のため現地の方々に直接お届けするなどの交流は控えたが、各市町の震災伝承施設を見学し、改めて震災について考える機会をもつことができた。また、震災から10年間の支援活動に対して大槌町より感謝状が贈呈された。

#### 【「静岡のみかん」をお届けします】

提供数：22件 488箱

届け先：大槌町・釜石市・陸前高田市・  
山田町・遠野市

「静岡のみかん」の配布についてはコロナ禍のため、復興支援活動団体や社会福祉協議会及び行政を通じて配布していただいた。



【クリスマスサンタ隊】

開催日：12月18日（金）～21日（月）

参加者：9名 事務局含む

内容：「静岡のみかん」配送、震災伝承施設見学（大槌町「文化交流センター震災伝承展示室」、釜石市「うのすまい・トモス」、陸前高田市「いわてTUNA MIメモリアル」、遠野市「後方支援資料館」）



## VIII. 先駆的、創造的事業の取り組み

### 1. 政府支給マスク・特別定額給付金募金の取り組み

2020年1月から全世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に対し、政府が支給した布マスクと特別定額給付金募金の募集を実施した。医療介護の現場に従事する方々へ、ボランティアが作成した簡易ビニールエプロン・ガウンを提供するとともに、新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見の防止を呼びかける「シトラスリボンプロジェクト」の啓発に努めた。また、フードバンクや子ども食堂など生活困窮となってしまった方々を支援する団体へは、活動資金や食品・政府支給の布マスクを提供し活動を応援した。政府支給布マスクについては、タイ・ネパールにも送り、感染防止に役立てていただいた。

#### <1>政府支給マスクの提供

提供数：21,121枚

寄付先：シーカーアジア財団（タイ） 9,600枚  
 パタン市役所（ネパール） 6,000枚  
 熊本県人吉市役所 3,900枚  
 静岡市子ども食堂ネットワーク

#### <2>特別定額給付金募金

協力者：49件 2,136,200円

寄付先：フードバンクふじのくに  
 静岡市子ども食堂ネットワーク

#### <3>簡易ビニールエプロン・ガウンの提供

提供先：静岡済生会総合病院

提供品：簡易ビニールエプロン 2,000着  
 簡易ビニールガウン 3,000着



### 2. ふるさと納税等によるNPO寄付制度への参加

静岡市が寄付金の受入先となり、地域活動を支援するための財源として寄付金を募集する「ふるさと応援寄附金等によるNPO等指定寄附事業」に応募し、事業実施のための寄付金募集を呼びかけた。約5カ月間寄付を呼びかけたが、目標額に達しなかったため、協賛金等の自主財源を充当し、当初の計画通りプロジェクトを実施することとした。

応募プロジェクト：「TOMOSHIBIプロジェクト」

映画で東日本大震災を追体験し、被災地に思いを馳せる

寄付受付期間：10月9日～2月26日

寄付方法：①静岡市へ納付書による寄付

②ふるさと納税サイト「さとふる」からの寄付

寄付目標額：1,200,000円

募金総額：470,000円（達成率 39%）

助成額：450,200円

寄付方法② ふるさと納税サイト「さとふる」からの寄付分については、手数料として13% + 税が差引かれた金額が助成金として交付される。

### 3. 東日本大震災10年の集い TOMOSHIBIプロジェクト 映画「風の電話」上映会

東日本大震災から10年が経過し、震災の風化が懸念され、震災後に生まれた子どもたちへの伝承が必要とされている。被災地では震災の伝承施設が開館しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、県をまたぐ移動は慎重にならざるを得ない。そこで、静岡県にいなから震災を追体験することで風化を防ぎ、災害を他人事ではなく「自分事」として捉え、いつか起こる南海トラフ沿いでの地震に対して準備を進めるきっかけをつくることを目的に映画上映を実施した。

上映映画：風の電話（2020年製作、139分）

岩手県大槌町に実在する『天国に繋がる電話』をモチーフに製作された映画

会場	日時	定員	参加者数	ゲスト
静岡県男女共同参画センター「あざれあ」	3月6日（土） 14:00～17:00	170名	166名	佐々木格さん
しずぎんホール ユーフォニア	3月20日（土・祝） 13:00～16:00	200名	156名	中川優芽さん
クリエート浜松	4月10日（土） 13:00～16:00	200名	150名	東梅 守さん
下田市民文化会館	4月18日（日） 13:00～16:00	100名	70名	ビデオレター
サンウェルぬまづ	4月21日（土） 13:00～16:00	150名	114名	八木澤弓美子さん

